

#コンパス それぞれの思い。

氷鏡 瑠璃

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、#コンパス【戦闘摂理解析システム】に登場する、キャラクターのストーリーを勝手に創作したものである。

目次

同盟国―桜花 忠臣

忠臣「私の姿をその目で見たこと…一生誇れ！」

ビー！ビー！襲撃です！襲撃です！

グスタフ「…またか…もうこれで何回目だ…」

アンジユ「…これ以上の襲撃は耐えられません。もう攻めるしか…」

グスタフ「しかし…攻めて勝てるとは限らないだろう！それに…相手は人間じゃない！」

アンジユ「…それを言うと、同盟国の忠臣様率いる、桜花軍も人間ではありません。」

グスタフ「忠臣…助けを求めたら良いが…」

忠臣「ツチ！我をここまで追い詰めるとはな…だが！この程度では無い！行くぞ！ケルパーズ！」

悪魔「ギシャアアア！」

忠臣「遠慮なく死ぬがいい！」

悪魔の身体は真つ二つに割れ、血が大量に溢れる。

忠臣「フルーク！爆弾を投下しろ！」

空に浮かぶ飛行船、『フルーク・ツオイク』

そこから大量の爆弾と共に『爆術死鬼 ツクモ』が降ってくる。

あちらこちらで爆音が鳴り響き、悪魔の絶叫が聞こえてくる。

忠臣「この程度の悪魔！蹴散らしてくれよう！」

忠臣は多くの悪魔を葬りつつも内心焦りを抱いていた。

この戦いには勝つことができる。

そのあとにグスタフの元へ加勢に行きたいのだ。

しかし、それには戦力が削られ過ぎる。

この程度とは言っているが、ギリギリの戦いなのだ。

しかし、すぐに加勢に行かなければ、グスタフは死んでしまう。だから、この戦いが終わったらすぐに、グスタフの所へ行かなければならない。

忠臣「ちよこまかちよこまかと！一掃してくれよう！」

忠臣を取り囲む大量の悪魔。

大量の悪魔が一斉に忠臣に襲いかかった。

忠臣「ふん！頭が高い！」

キイイーン！

という甲高い音が鳴り響き、忠臣を中心として、青い閃光が走る。閃光が消えた頃、周りの悪魔は消し炭にされ、残っていたのは刀を地面に突き立てた忠臣だけだった。

しかしそれでも、悪魔の軍勢はまだ大量にいる。

忠臣「だが…皆よ！悪魔は確実に減っている！攻めろ！このまま悪魔を殲滅しろ！」

ゲネラル「この、妖軍一統　ゲネラル！総帥様の勝利に貢献いたそう！」

ゲネラルの周囲に赤い閃光が走る。

それは莫大なエネルギーと共に周囲に放たれた。

ゲネラルは周囲への攻撃が得意なのだ。

周囲の悪魔は跡形も無く殲滅され、範囲外にいた悪魔も爆風で吹き飛ばされ、その衝撃で粉々になっていく。

忠臣「ゲネラル…よくやった！」

月夜叉「妖炎参謀　月夜叉！微力ながらお力添えを！」

突如、桜花軍の面々の身体が緑色の光に包まれ、桜花軍の傷が癒えていった。

月夜叉は味方の回復をすることが出来るのだ。

回復により、気力と士気を上げると、桜花軍の攻撃はさらに激しくなっってゆき、軍の悪魔の殲滅のスピードが格段に上がった。

忠臣「月夜叉！回復感謝する！はっはっはっ！皆よ！行くぞ！」

忠臣「私の姿をその目で見たこと…一生誇れ！まあ最も、その一生は今終わるのだがな。」
そして、最後の一体を切り捨てた。